

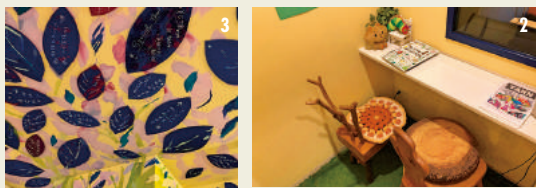
コアコア新聞

こんなヒトにワクワク
アんなコトにドキドキ
コんなモノにソワソワ
アんなトコロにゾロゾロ

映画館力 シネマ・チュプキ・タバタ 東京都北区

クラウドファンディングで 実現した「完全バリアフリー」 の手作り映画館

障害のある人もそうでない人も、誰もが気軽に映画を楽しめる映画館が2016年に東京都北区田端の小さな商店街の二画にオープンした。音声ガイドに親子鑑賞室など、かゆいところに手が届く心配りとは？



1 座席数は固定席、可動席を合わせて20席ほど。2 小さい子どもがぐずった時のために完全防音の「親子鑑賞室」も完備。3 支援者全員の名前が書かれた「チュプキの樹」。

「ユニバーサルシアター」。耳慣れない言葉だが、健常者も障害者も一緒に映画を楽しめる映画館を指す。2016年（平成28）9月、東京・田端に日本初のユニバーサルシアターが誕生した。運営するのは、バリアフリー映画鑑賞推進団体のシテイ・ライツ。

「物件探しと営業申請を同時に進めていたので、集まらなかつたらどうしようと不安で一杯でした。でも、蓋を開けてみると3カ月間で531人の方から計1880万円もの資金が集まっ



代表の平塚さん。音声ガイドはこの部屋で制作される。

しむためには言葉で映像を解説する『音声ガイド』が必要だと実感したんです」

平塚さんは2001年にシテイ・ライツを立ち上げ、田端の隣駅、上中里で字幕や音声ガイド付きのバリアフリー上映会を開いてきた。ここで言う「音声ガイド」とは、「夕暮れ時、寅さんがトランクを片手に土手の上を歩いていく」といった視覚的な情報を補うナレーションを指す。やがて、映画館営業の許可を取得して本格的なユニバーサルシアターを作りたいと思うようになり、開業資金を賄うためのクラウドファンディングを始めた。

たんです。地道に続けてきたシテイ・ライツの活動が評価されたのかもかもしれません」
こうして生まれたのがシネマ・チュプキ・タバタだ。平塚さんは音響にも相当こだわった。「立川シネマシティの爆音上映で有名になった『ガールズ&パンツァー劇場版』の音響監督、岩浪美和（いわなみ・よしかず）さんに音響設計を依頼しました。劇場の前面、側面、後面、天井すべてにスピーカーを配置し、森に包まれているかのような立体的な『フォレストサウンド』を実現しています」



JR山手線田端駅北口から徒歩5分、田端駅下仲通り商興会にある。

DATA
シネマ・チュプキ・タバタ
住所 ● 東京都北区東田端2-8-4
電話 ● 03-6240-8480
営業時間 ● 10:00~23:00
料金 ● 一般1,500円
シニア（60歳以上）1,000円
学生1,000円 / 中学生以下500円
定休日 ● 水曜日
公式サイト ● <http://chupki.jp.org>

など8本。しかし、上映できる作品は限られている。
「うちの映写機は最新のデジタルシネマパッケージに対応していないので、ディスクで貸し出してくれる配給元に限られます。また、ほとんどの場合、10年経つと上映権が切れてしまうので、作品選びには本当に苦労しますね」
しかし、平塚さんたちの真摯な取り組みは口コミなどで全国に広がった。オープンから2年半、入場者数は右肩上がりが増えていく。
「チュプキとはアイヌ語で「自然の光」という意味。人工的な街の光を指す「シテイ・ライツ」との対比でもあり、視覚障害者の暗い視界をやさしく照らす月明かりのような存在でいたいという思いも込められている。観客らはスクリーンにそれぞれの光を見出し続けるのだらう。」
（石原たまき）